

電子提供措置の開始日 2026年6月4日

第141期定時株主総会
その他の電子提供措置事項
(交付書面省略事項)

連結計算書類の連結注記表
計算書類の個別注記表
(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

日本パーカライジング株式会社

連結注記表

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記等)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社等の数	42社
主要な連結子会社等の名称	パーカーエンジニアリング(株)、日本カニゼン(株)、 パーカー加工(株)、浜松熱処理工業(株)、 パーカーツルテック(株)、タイパーカライジング(株)

新設分割によりParker MedTech株式会社を設立したため、当連結会計年度より連結子会社に含めております。

また、パーカー加工(株)は、2026年4月1日付でパーカープロセッシング(株)に名称変更しております。

非連結子会社等	2社
主要な非連結子会社等の名称	上海パーカー表面改質
(連結の範囲から除外した理由)	非連結子会社等は、総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金等の点からみて、いずれも小規模であり、連結計算書類に及ぼす影響が軽微であるため、除外しております。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法を適用した関連会社の数	9社
持分法を適用した主要な関連会社の名称	(株)パーカーコーポレーション パーカー熱処理工業(株)、(株)雄元 上海パーカライジング、瀋陽パーカライジング
持分法を適用しない非連結子会社及び 関連会社のうち主要な会社等の名称	上海パーカー表面改質

3. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ 有価証券

その他有価証券
(市場価格のない株式等
以外のもの)

当連結会計年度末日の市場価格等に基づく時価法によって
おります。

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は
移動平均法により算定しております。)

(市場価格のない株式等)

主として移動平均法による原価法によっております。

ロ 棚卸資産

主として総平均法に基づく原価法(収益性の低下による簿
価切下げの方法)によっております。

ハ デリバティブ取引により生ずる 債権及び債務

時価法によっております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

また、主な耐用年数は下記のとおりであります。

建物及び構築物 2~50年

機械装置及び車輛運搬具 2~15年

また、2007年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した
翌年から5年間で均等償却する方法によっております。

ロ 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

ハ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとして算定する定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

イ 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債
権等特定の債権については個別の債権の回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しており
ます。

ロ 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与で支給対象期間に対応して費用負担するため、支給見積額の当
期の負担に属する部分を計上しております。

(4) 重要な収益及び費用の計上基準

当社グループの顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該義務を充足する時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

当社グループは、下記の5ステップアプローチに基づき、収益を認識しております。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引金額を算定する。

ステップ4：取引価格を契約における履行義務に配分する。

ステップ5：企業が履行義務の充足時に収益を認識する。

「薬品事業」は耐食性、耐摩耗性、潤滑性等の機能性向上を目的に、金属等の表面に化成皮膜を施し、素材の付加価値を高める薬剤等を中心に製造・販売を行っております。「装置事業」は前処理装置、塗装設備等の製造・販売を行っております。「加工事業」は熱処理加工、防錆加工、めっき加工等の表面処理の加工サービス提供を行っております。「その他」は、ビルメンテナンス事業、太陽光発電事業を行っております。

収益は顧客への財又はサービスの移転と交換に権利を得ると見込んでいる対価の金額で認識しております。変動性がある値引き、購入量に応じた割戻等につきましては、変動対価の金額が非常に僅少であると認識しております。そして、「薬品事業」の一部商品販売取引について、当社グループの役割が商品を他の当事者によって提供されるように手配する取引については、顧客から受け取る額から仕入先に支払う額を控除した純額で収益を認識しております。

「薬品事業」は、薬剤等を製造・販売しており、通常薬剤の引渡時点において顧客が当該薬剤に対する支配を獲得し、履行義務が充足されていると判断していることから、当該薬剤の引渡時点で収益を認識しております。ただし、国内の販売においては、出荷時から顧客による引渡時点までの期間が通常の期間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

「加工事業」は、主に顧客からの受託加工処理を実施しており、加工処理を実施するにつれて顧客が支配を獲得するため、一定の期間にわたり履行義務を充足し収益を認識しております。進捗度の測定は、サービス提供に要する作業の完了の割合によるアウトプット法を用いております。

「装置事業」は、前処理装置、塗装設備及び設備保守部品等の製造・販売を行っております。前処理装置及び塗装設備等につきましては、期間がごく短い工事を除き、通常装置の製造が進捗するにつれて、顧客が支配を獲得するため、一定の期間にわたり履行義務を充足し収益を認識しております。履行義務の充足に係る進捗度の見積り方法は、見積総原価に対する実際原価の割合（インプット法）で算出しております。履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積もることができないが、発生する費用を回収することが見込まれる場合は、原価回収基準にて収益を認識しております。なお、期間がごく短い工事については、完全に履行義務を充足した時点で収益を認識しております。設備保守部品等については、通常部品等の引渡時点において顧客が当該部品等に対する支配を獲得し、履行義務が充足されていると判断していることから当該部品等の引渡時点で収益を認識しております。ただし、国内の販売においては、出荷時から顧客による引渡時点までの期間が通常の期間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

「その他」は、主に支配が一定期間にわたり移転する契約になります。

上記の履行義務に対する対価は、履行義務の完了後、概ね1年以内に受領しており、当該顧客との契約に基づく債権について、重要な金融要素はありません。装置事業については、一部、前受金を受領することがありますが、前受金の受領から履行義務の充足まで概ね1年以内であるため、重要な金融要素は含まれておりません。

(5) その他連結計算書類作成のための重要な事項

イ 連結子会社等の事業年度等に関する事項

インドに所在する連結子会社を除く在外連結子会社等の決算日は12月31日であり、同日現在の財務諸表を使用しておりますが、連結会計年度末日との間に生じた重要な取引については連結上必要な調整を行っております。

ロ 退職給付に係る会計処理の方法

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

過去勤務費用については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。

ハ 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結会計年度末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めております。

ニ 重要なヘッジ会計の方法

① ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジによっております。また、為替予約については、振当処理の要件を満たす場合は振当処理を、金利スワップについては、特例処理の要件を満たしている場合は特例処理を適用します。

② ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段については、為替予約取引及び金利スワップを適用します。また、ヘッジ対象については、外貨建金銭債権債務及び借入金利息を対象にしております。

③ ヘッジ方針

金利変動リスク及び為替変動リスクの低減のため、対象債権債務の範囲内でヘッジを適用します。

④ ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象の相場変動の累計とヘッジ手段の相場変動の累計とを比較し、両者の変動額等を基礎にして有効性の評価を実施します。

ホ のれんの償却方法及び償却期間

個別案件ごとに判断し、10年以内の合理的な年数で均等償却を行っております。

ヘ 消費税等の処理方法

資産に係る控除対象外消費税等は、発生年度の費用として処理しております。

(会計上の見積りに関する注記)

工事請負契約に係る収益認識の進捗度の測定に関連する工事原価総額の見積り

イ 当連結会計年度の連結計算書類に計上した額

当連結会計年度の装置事業セグメントの外部顧客に対する売上高は、27,621百万円であり、工事請負契約について、期間がごく短い工事を除き、履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき収益を一定の期間にわたり認識しております。なお、履行義務の充足に係る進捗度は当連結会計年度末までの工事原価を工事原価総額の見積りと比較する方法（インプット法）より測定しております。

ロ 会計上の見積りの内容について連結計算書類利用者の理解に資するその他の情報

(1) 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額の算出方法及び主要な仮定

工事請負契約について、期間がごく短い工事を除き、履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき収益を一定の期間にわたり認識しております。進捗度は、当連結会計年度末までに発生した工事原価を工事原価総額の見積りと比較することにより測定しております。工事原価総額は、必要となる資材や技術員、完成するまでの期間等に基づいて算定いたします。

(2) 翌連結会計年度の連結計算書類に与える影響

工事契約の着手後に判明する事実の存在、現場の状況の変化、市場環境の変化によって作業内容等が変更される結果、財政状態及び経営成績に影響を与える可能性があります。

(連結貸借対照表に関する注記)

- | | |
|--------------------------|------------|
| 1. 有形固定資産から直接控除した減価償却累計額 | 117,088百万円 |
| 2. 担保資産 | |
| 担保に供している資産 | |
| 土地 | 21百万円 |

(連結損益計算書に関する注記)

1. 減損損失

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

①減損損失を認識した主な資産グループ

場所	用途	種類	減損損失
静岡県	事業用資産	建物、機械装置等	805百万円

②減損損失の認識に至った経緯

営業活動から生ずるキャッシュ・フローが継続してマイナス又は継続してマイナスとなる見込みである資産グループについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

③資産のグルーピング方法

当社グループは、事業用資産においては事業区分をもとに概ね独立したキャッシュ・フローの生み出す最小の単位ごとに、賃貸不動産及び遊休資産においては個別物件単位で、資産のグルーピングを行っております。

④回収可能価額の算定方法

静岡県の事業用資産について、回収可能価額は使用価値に基づき算定しております。

2. 事業構造改善費用

中国の子会社において、収益性の改善を図る施策を行ったことに伴う費用であり、主な内容は従業員の早期退職に関連するものです。

(連結株主資本等変動計算書に関する注記)

1. 当連結会計年度末日における発行済株式の数 普通株式 132,604,524株

2. 剰余金の配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2025年6月27日 定時株主総会	普通株式	2,950	25.00	2025年3月31日	2025年6月30日
2025年11月10日 取締役会	普通株式	2,807	25.00	2025年9月30日	2025年12月10日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの次のとおり、決議を予定しております。

決議予定	株式の種類	配当金の原資	配当の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2026年6月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	2,786	25.00	2026年 3月31日	2026年 6月29日

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループでは、設備投資計画に照らして、必要な資金を金融機関からの借り入れにより調達しております。一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては当社グループの与信管理規程及び債権管理規程に沿ってリスク低減を図っております。投資有価証券は、主に取引先企業との業務又は資本提携等に関連する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、ほとんどが1年以内の支払期日であります。借入金の使途は運転資金(主として短期)および設備投資資金(長期)であり、償還日は決算日後、最長で2年以内であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、与信管理規程及び債権管理規程に従い、営業債権及び長期貸付金について、各事業部門における営業管理部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の与信管理規程及び債権管理規程に準じて、同様の管理を行っております。

満期保有目的の債券は格付の高い債券のみを対象としているため、信用リスクは僅少であります。

デリバティブ取引の利用にあたっては、カウンターパーティーリスクを軽減するために、格付の高い金融機関とのみ取引を行っております。

当連結会計年度末現在における最大信用リスク額は、信用リスクに晒される金融資産の貸借対照表価額により表わされています。

② 市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

有価証券および投資有価証券については、定期的到时価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、また、満期保有目的の債券以外のものについては、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引の利用にあたっては、取引の必要性を各事業部等で検討の上、経理担当部門が取引を行い、記帳及び契約先と残高照合等を行っており、取引実績は、所管(若しくは経理担当)の役員に報告しております。

③ 資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、各部署からの報告に基づき経理担当部門が適時に資金繰計画を作成・更新し、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2026年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等は、次表には含めておりません（注2）を参照ください。（単位：百万円）

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
有価証券及び投資有価証券			
関係会社株式	233	8,866	8,632
その他有価証券	30,921	30,921	—
資産計	31,155	39,787	8,632
長期借入金	250	246	△3
負債計	250	246	△3

（注1）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資 産

現金及び預金、受取手形、売掛金及び契約資産、有価証券に含まれるMMF
これらは短期間で決済されるものであるため、時価が帳簿価額に近似するものであることから、注記を省略しております。

有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関から揭示された価格によっております。投資信託は公表されている基準価格によっております。

負 債

支払手形及び買掛金、短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、未払法人税等
これらは短期間で決済されるものであるため、時価が帳簿価額に近似するものであることから、注記を省略しております。

長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

（注2）市場価格のない株式等

（単位：百万円）

区 分	連結貸借対照表計上額
非上場関係会社株式	9,121
非 上 場 株 式	225
出 資 金	9,531

これらについては、上表には含めておりません。

（注3）満期のある金銭債権及び有価証券の連結決算日後の償還予定額

（単位：百万円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	72,757	—	—	—
受取手形、売掛金及び契約資産	39,246	—	—	—
合 計	112,004	—	—	—

（注4）長期借入金の連結決算日後の返済予定額

（単位：百万円）

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
長期借入金	—	250	—	—	—	—
合 計	—	250	—	—	—	—

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価

同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価

レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価

重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

当連結会計年度（2026年3月31日）

区分	時価（百万円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券				
株式	30,907	—	—	30,907
債券	—	—	—	—
その他	—	13	—	13
資産計	30,907	13	—	30,921
負債計	—	—	—	—

(2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

当連結会計年度（2026年3月31日）

区分	時価（百万円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券及び投資有価証券				
関係会社株式	8,866	—	—	8,866
資産計	8,866	—	—	8,866
負債計	—	—	—	—

（注）時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

有価証券及び投資有価証券

活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル1の時価に分類しております。主に株式がこれに含まれます。公表された相場価格を用いていたとしても市場が活発でない場合にはレベル2の時価に分類しております。主に国債、地方債、社債がこれに含まれます。また、投資信託は公表されている基準価格によっておりレベル2の時価に分類しております。

(収益認識に関する注記)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当連結会計年度（自 2025年4月1日 至 2026年3月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他	合計
	薬品事業	装置事業 (注1)	加工事業	計		
日本	33,204	16,173	26,143	75,521	3,043	78,565
アジア	24,840	10,711	12,599	48,151	—	48,151
欧米	874	737	9,827	11,439	—	11,439
顧客との契約から生じる収益	58,919	27,621	48,570	135,111	3,043	138,155
外部顧客への売上高	58,919	27,621	48,570	135,111	3,043	138,155

(注) 1. 装置事業の収益のうち、一定期間にわたり認識している収益の額は、24,392百万円であります。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

(連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記等) 3. 会計方針に関する事項

(4) 重要な収益及び費用の計上基準に記載のとおりであります。

3. 当連結会計年度および翌連結会計年度以降の収益の金額を理解するための情報

(1) 顧客との契約から生じた債権及び契約資産・契約負債の残高等

(単位：百万円)

	当連結会計年度	
	期首残高	期末残高
顧客との契約から生じた債権		
受取手形	8,714	7,899
売掛金	28,676	29,144
契約資産	7,135	4,536
契約負債	3,850	2,357

(注)

1. 契約資産は、主に装置事業において、報告期間の末日時点で履行義務の充足部分と交換に受取る対価に対する権利のうち、債権を除いたものです。装置据付完了に伴い、時の経過以外の条件は解消し、債権へ振替えられます。
2. 契約負債は、主に装置事業にかかる顧客からの前受金に関連するものになります。契約負債は、主として装置事業において、顧客から受領した対価のうち既に収益として認識した額を上回る部分です。これらの役務提供に伴って履行義務は充足され、契約負債は収益へと振替えられます。期首残高は概ねその全額が当連結会計年度に収益として認識されております。
3. 契約負債の増減は、主として前受金の受取りと、収益認識による減少になります。

(1株当たり情報に関する注記)

- | | |
|---------------|-----------|
| 1. 1株当たり純資産額 | 1,864円35銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 117円16銭 |

(注) 総額法の適用により計上された自己株式については、1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

また、1株当たりの純資産の算定上、期末発行済株式総数から控除する自己株式に含めております。

期末の当該自己株式の数 290,200株 期中平均の当該自己株式の数 295,585株

(重要な後発事象に関する注記)

(重要な後発事象)

(会社分割)

当社は、2026年4月1日を効力発生日として、当社の加工事業を完全子会社であるパーカー加工株式会社に、会社法に定める簡易吸収分割の手法により承継させることで両社の加工事業を統合し、パーカー加工株式会社をパーカープロセッシング株式会社に商号変更いたしました。パーカープロセッシング株式会社（以下、新会社）では、当社加工事業本部とパーカー加工株式会社を対等の立場で統合して両社の経営資源を融合することで事業効率を高め、より強固な事業基盤を構築し、当社グループの加工事業を担う中核会社として新たに事業を開始します。

なお、本吸収分割は、当社の完全子会社に加工事業を承継させる簡易吸収分割であるため、開示事項・内容の一部を省略しております。

1. 会社分割の概要

(1) 会社分割の目的

グローバル競争の激化に加え、環境規制や脱炭素対応の加速、短納期対応や高機能材への加工、トレーサビリティ確保など、顧客ニーズの高度化・多様化が進む中、市場環境は大きく変化しています。こうした変化に対応し、加工事業の持続的な成長を実現するには、サービス体制の強化だけでなく、生産性の向上や差別化技術の開発が不可欠です。当社グループはこの課題に対応するため、当社加工事業本部とパーカー加工株式会社を統合し、両社が培ってきた技術・ノウハウを融合することで、グループシナジーを最大化し、競争力ある高品質なサービスの提供を目指します。当社および新会社は、「地球上に限りある資源の有効活用を図り、あらゆる素材の表面改質を通じて、資源の新しい価値を創造し、地球環境の保全と豊かな社会作りに貢献します」という企業理念を共有し、脱炭素社会に貢献する表面処理技術などの提供を目指します。事業統合後は、営業部門や生産体制の一体化を図るとともに、2025年4月に開所した新総合技術研究所とも緊密に連携し、新しい表面処理技術の開発に取り組みます。これにより、幅広い産業分野に高品質で安定したサービスを提供し、顧客から信頼されるパートナーを目指します。

表面処理は、鉄鋼、自動車、鉄道などの基幹産業から、電動化やデジタル化に対応した最先端分野まで、ものづくりになく不可欠な技術です。当社グループは表面処理のリーディングカンパニーとして、トップレベルの技術力を活かし、常にお客様の満足を第一に考えながら、社会に貢献してまいります。

(2) 分割する事業の内容

加工事業

(3) 本吸収分割の形態

当社を分割会社とし、パーカープロセッシング株式会社を承継会社とする簡易吸収分割

(4) 本吸収分割に係る承継会社の名称

パーカープロセッシング株式会社

(5) 本吸収分割の効力発生日

2026年4月1日

2. 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引として処理いたします。

(吸収合併)

当社は、2025年12月25日開催の取締役会において、当社の完全子会社である北海道パーカライジング株式会社を下記のとおり吸収合併することを決議し、同日付で合併契約を締結しております。

1. 取引の概要

(1) 結合当事企業の名称及びその事業の内容

(吸収合併消滅会社)

名称 北海道パーカライジング株式会社

事業の内容 薬品事業

(2) 企業結合日

2026年4月1日

(3) 企業結合の法的形式

2026年4月1日を効力発生日として、当社を存続会社とする吸収合併方式で、北海道パーカライジング株式会社は解散いたしました。

(4) 合併の目的

北海道パーカライジング株式会社は当社の完全子会社であり、金属表面処理薬剤及び防錆油の販売、表面処理の受託加工を主に行っております。

この度、当社グループの持続的な成長と経営資源の集約による事業効率の向上を目的として、同社を当社に吸収合併することといたしました。

2. 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引として処理いたします。

個別注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法
 - (1) 子会社株式及び関連会社株式
移動平均法による原価法によっております。
 - (2) その他有価証券
市場価格のない株式等以外のもの
期末日の市場価格等に基づく時価法によっております。
(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定して
おります。)
市場価格のない株式等
移動平均法による原価法によっております。
2. 棚卸資産の評価基準及び評価方法
評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。
商品、製品、原材料……総平均法
貯蔵品……最終仕入原価法
3. 固定資産の減価償却の方法
 - (1) 有形固定資産(リース資産を除く)
定額法によっております。
主な耐用年数は下記のとおりであります。
建物及び構築物 2～50年
機械装置及び車両運搬具 2～15年
また、2007年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年
から5年間で均等償却する方法によっております。
 - (2) 無形固定資産(リース資産を除く)
定額法によっております。
なお、耐用年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。
ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づいて
おります。
 - (3) リース資産
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別の債権の回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与で支給対象期間に対応して費用負担するため、支給見積額の当期の負担に属する部分を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の処理方法は以下のとおりです。

イ 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

ロ 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日事業年度から費用処理しております。

過去勤務費用については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により費用処理しております。

5. 重要な収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該義務を充足する時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

当社は、下記の5ステップアプローチに基づき、収益を認識しております。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引金額を算定する。

ステップ4：取引価格を契約における履行義務に配分する。

ステップ5：企業が履行義務の充足時に収益を認識する。

「薬品事業」は耐食性、耐摩耗性、潤滑性等の機能性向上を目的に、金属等の表面に化成皮膜を施し、素材の付加価値を高める薬剤等を中心に製造・販売を行っております。「装置事業」は前処理装置、塗装設備等の製造・販売を行っております。「加工事業」は熱処理加工、防錆加工等の表面処理の加工サービス提供を行っております。

収益は顧客への財又はサービスの移転と交換に権利を得ると見込んでいる対価の金額で認識しております。変動性がある値引き、購入量に応じた割戻等につきましては、変動対価の金額が非常に僅少であると認識しております。そして、「薬品事業」の一部商品販売取引について、当社グループの役割が商品を他の当事者によって提供されるように手配する取引については、顧客から受け取る額から仕入先に支払う額を控除した純額で収益を認識しております。

「薬品事業」は、薬剤等を製造・販売しており、通常薬剤の引渡時点において顧客が当該薬剤に対する支配を獲得し、履行義務が充足されていると判断していることから、当該薬剤の引渡時点で収益を認識しております。ただし、国内の販売においては、出荷時から顧客による引渡時までの期間が通常の期間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

「加工事業」は、主に顧客からの受託加工処理を実施しており、加工処理を実施するにつれて顧客が支配を獲得するため、一定の期間にわたり履行義務を充足し収益を認識しております。進捗度の測定は、サービス提供に要する作業の完了の割合によるアウトプット法を用いております。

「装置事業」は、前処理装置、塗装設備及び設備保守部品等の製造・販売を行っております。前処理装置及び塗装設備等につきましては、期間がごく短い工事を除き、通常装置の製造が進捗するにつれて、顧客が支配を獲得するため、一定の期間にわたり履行義務を充足し収益を認識しております。履行義務の充足に係る進捗度の見積り方法は、見積総原価に対する実際原価の割合（インプット法）で算出しております。履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積もることができないが、発生する費用を回収することが見込まれる場合は、原価回収基準にて収益を認識しております。なお、期間がごく短い工事については、完全に履行義務を充足した時点で収益を認識しております。設備保守部品等については、出荷時から顧客による引渡時までの期間が通常の期間である場合が主な取引であるため、出荷時に収益を認識しております。

上記の履行義務に対する対価は、履行義務の完了後、概ね1年以内に受領しており、当該顧客との契約に基づく債権について、重要な金融要素はありません。装置事業については、一部、前受金を受領することがありますが、前受金の受領から履行義務の充足まで概ね1年以内であるため、重要な金融要素は含まれておりません。

6. その他の計算書類作成のための重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

資産に係る控除対象外消費税等は、発生年度の費用として処理しております。

(会計上の見積りに関する注記)

市場価格のない関係会社株式及び関係会社出資金の評価

(1) 当事業年度の計算書類に計上した額

関係会社株式及び関係会社出資金 36,581百万円 (注)

関係会社株式評価損 594百万円 (注)

(注) 市場価格のない関係会社株式及び関係会社出資金を記載しております。

(2) 会計上の見積りの内容について計算書類利用者の理解に資するその他の情報

イ 当事業年度の計算書類に計上した金額の算出方法及び主要な仮定

2026年3月31日現在、当社の連結子会社数は42社、持分法適用関連会社数は9社であり、その所在国や営む事業は多岐にわたっております。当社は、これらの関係会社の株式及び出資金を直接的又は間接的に保有しておりますが、その大部分は市場価格のない株式及び出資金であります。

当社は、市場価格のない関係会社株式及び関係会社出資金について、当該関係会社株式及び関係会社出資金の発行会社の財政状態の悪化により株式及び出資金の実質価額が50%程度以上低下した場合に、実質価額が著しく低下したと判断し、おおむね5年以内の回復可能性が十分な証拠によって裏付けられる場合を除き、期末に相当の減額処理を行うこととしております。

当社は、以上の方針に従い、当該関係会社株式及び関係会社出資金の実質価額の状態を確認し、実質価額が著しく低下した場合には回復可能性を検討することにより減損処理の要否を検討した結果、当事業年度において関係会社株式評価損を594百万円計上しております。

ロ 翌事業年度の計算書類に与える影響

想定外の市場環境の悪化により、実質価額が著しく低下した場合には、市場価格のない関係会社株式及び関係会社出資金の評価に悪影響を与える可能性があります。

(貸借対照表に関する注記)

1. 有形固定資産から直接控除した減価償却累計額	33,820百万円
2. 関係会社に対する金銭債権及び債務	
短期金銭債権	5,029百万円
長期金銭債権	3,474百万円
短期金銭債務	20,620百万円
長期金銭債務	38百万円

(損益計算書に関する注記)

関係会社との取引高

売上高	5,858百万円
仕入高	5,310百万円
営業外収益	15,934百万円
営業外費用	133百万円

(株主資本等変動計算書に関する注記)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	14,881,313	6,587,710	17,500	21,451,523

(注) 2024年8月9日の取締役会決議による自己株式の取得	2,982,500株
2025年8月7日の取締役会決議による自己株式の取得	3,605,000株
単元未満株式の買取による増加	210株
株式給付信託(BBT)による当社株式の給付による減少	17,500株

(税効果会計に関する注記)

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(繰延税金資産)

貸倒引当金	589百万円
賞与引当金	384百万円
退職給付引当金	△85百万円
退職給付信託資産	1,294百万円
減損損失累計額	199百万円
その他	1,088百万円
繰延税金資産小計	3,471百万円
評価性引当額	△900百万円
繰延税金資産合計	2,571百万円

(繰延税金負債)

固定資産圧縮積立金	△104百万円
その他有価証券評価差額金	△6,551百万円
その他	△10百万円
繰延税金負債合計	△6,666百万円

繰延税金負債の純額 4,095百万円

(関連当事者との取引に関する注記)

1. 子会社等

属性	会社名	住所	資本金	事業の内容	議決権の所有割合	議決権の被所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額	科目	期末残高
							役員の兼任等	事業上の関係				
			百万円		%	%				百万円		百万円
子会社	パーカーエンジニアリング(株)	東京都中央区	494	防錆加工装置製造・販売	90.0	—	有	防錆加工装置を外注している建物の一部賃借している	CMSによる資金の預り	2,140	預り金	5,065
子会社	日本カニゼン(株)	東京都足立区	428	無電解めっき液の製造・販売及び加工	100.0	—	有	金属表面処理剤を販売及び購入している	CMSによる資金の預り	2,514	預り金	3,019
子会社	パーカー加工(株)	東京都中央区	416	防錆加工及び塗装	100.0	—	有	金属表面処理剤を販売している防錆加工を一外部外注している建物の一部賃借している	CMSによる資金の預り	6,217	預り金	5,586
子会社	浜松熱処理工業(株)	静岡県浜松市	150	熱処理加工	56.3	—	有	熱処理加工を受託している	CMSによる資金の預り	3,303	預り金	3,685
			百万円		%	%				百万円		百万円
子会社	日本パーライジングインディア(株)	インド	1,294	金属表面処理剤の製造・販売加工	100.0	—	有	金属表面処理剤の一部原料を輸出している金属表面処理剤の製造技術を供与している	資金の貸付	2,712	長期貸付金	2,712
			百万円		%	%				百万円		百万円
関連会社	株雄元	東京都中央区	100	不動産・管理及びリース事業	39.5	3.6	有	不動産管理業務、各種保険業務及びリース業務を委託している建物の一部賃借している	固定資産の譲渡 固定資産の売却 利益	46 36	—	—

(注) 取引条件および取引条件の決定方針等

1. CMSによる資金の預りについては、連結グループ内における効率的な資金運用を目的としたCMS（キャッシュ・マネジメント・システム）によるものであり、利息については市場金利を勘案し合理的に決定しております。また、取引金額については期中平均残高によっております。
2. 資金の貸付の利息については、市場金利を勘案して決定しております。
3. 価格その他の取引条件は、市場価格を勘案し、双方協議の上決定しております。

(収益認識に関する注記)

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、【重要な会計方針に係る事項に関する注記】5. 重要な収益及び費用の計上基準に記載のとおりであります。

(1株当たり情報に関する注記)

- | | |
|---------------|---------|
| 1. 1株当たり純資産額 | 991円76銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 185円91銭 |

(重要な後発事象に関する注記)

重要な後発事象に関する注記については、「連結注記表 重要な後発事象に関する注記」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。